
大和小学校

「学び合い高め合い意欲的に学ぶ児童の育成」

～対話的な学びの実現に向けた授業づくりを通して～

I 研究の内容

1 対話的な学びを取り入れた授業づくり

(1) 研究授業及び研究会

第5学年 道徳「ロレンゾの友達」 授業者 廣瀬 尚子 教諭

(2) 実践授業及び振り返り

第1学年 算数「ひきざん」 授業者 飯室 美華 教諭

第2学年 算数「九九をつくろう」 授業者 吉本 賢司 教諭

第4学年 算数「四角形の特ちょうを調べよう」 授業者 鈴木奈津美 教諭

第6学年 体育「ボール運動『ア ゴール型』サッカー」
授業者 小野 敬久 教諭

ひまわり学級 第6学年 国語「『鳥獣戯画』を読む 日本文化を発信しよう」
授業者 幡野 成実 教諭

(3) 講師を招聘しての学習会

「主体的・対話的で深い学び」についての学習会

講師 山梨県総合教育センター 主幹・指導主事 外川 陽清 先生

道徳科の授業づくりについての学習会

道徳「私には夢がある」模擬授業

第2学年 道徳「公園のおにごっこ」示範授業
山梨大学 准教授 田中 一弘 先生

2 意欲的に学ぶ学習集団づくり

(1) 学習規律の確立

- ・「大和小学習のきまり」の定着
- ・学習規律に関するアンケートの実施と分析

(2) Q-U 調査の分析と対策

- ・年2回 Q-U 調査の実施
- ・K-13 法による分析と対策

3 家庭と連携した学習環境づくり

(1) 家庭学習習慣化の取組

- ・自主学習の取組についてのアンケート実施
- ・自主学習掲示板による自主学習の紹介
- ・自主学習強化週間（チャレンジ週間）の実施
- ・自主学習ビンゴの取組

- ・家庭学習の必要性などについての家庭への啓発
- ・大和小自主学習スタンバイの確立

Ⅱ 成果と課題

1 授業づくりに関わって

学習会では、「主体的・対話的で深い学び」についての講義やグループワークをすることで理論研究をすることができた。研究授業、一人一実践では、対話的な学びを取り入れた授業実践を行った。5年生道徳科の研究授業では、児童が考えたことを生き生きと交流しており、それまでの継続した取組の成果が表れていた。山梨大学田中先生には、研究授業の指導助言のほか、模擬授業・学習会・示範授業をしていただいた。考え、議論する道徳の授業づくりについて指導していただき、理解を深めることができた。一実践では、全員が授業を公開し、お互いの授業を見合うことで、それぞれの児童の実態にあった指導の工夫や手立てについて学び合うことができた。「対話的な学び」に重点を置いて取り組んできたが、今後も継続して取り組んでいきたい。

2 学習集団づくりに関わって

2回のQ U検査を行い、K13法を行った。小規模校のよさを活かし、全校児童の実態を全職員が知り、問題点に対して様々な視点から対策を考えた。話し合われたことを全職員が共通理解したうえで、指導にあたることができた。限られた時間の中でK13法を行っているので、会の持ち方や進め方について、よりよい方法を考えて行っていきたい。

大和小学習のきまりについては、昨年度から、児童評価の方法を変え、評価規準を設けたので、児童がよりわかりやすく、意識して取り組むことができた。日常的な声掛けを行い、さらなる定着を目指して取り組んでいきたい。

3 学習環境づくりに関わって

ほとんどの児童が毎日自主学習に取り組むことができるようになった。2回の自主学習強化週間を通して、多くの先生にノートを見ていただいたり、表にシールを貼ったりすることで、児童の意欲や関心が高まった。また今年度から「自主学習ビンゴ」の取組を始めたことで、様々な内容に取り組むようになり、学習の幅が広がった。しかし、強化週間以外の期間では、学習内容にまだ個人差があるため、個に応じた指導が必要である。自主学習スタンバイ記入についても、時間の確保や内容の指導をしていきたい。

Ⅲ 成果物

研究授業、実践授業の授業案（ワークシート等も含む）

Q U検査の分析結果、アタックシート

大和小学習のきまりと評価規準 自主学習ビンゴ

（研究主任 飯室 美華）